

*2015年4月3日に発信したニュースリリースの数値の一部に修正が発生したため、差し替え対応をいたしました(2015年8月26日)。

2015年4月3日

サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量の削減に向けて グループ 6社で「スコープ3」を初めて算定

株式会社セブン&アイ・ホールディングス(東京都千代田区、代表取締役社長:村田紀敏)は、このたび、グループ主要 6社のサプライチェーン全体における温室効果ガス排出量(「スコープ3」)を初めて算定いたしました。

「スコープ3」とは、自社排出量以外の、原材料・商品の調達、配送、商品使用、廃棄過程から出る温室効果ガスの排出量のことを指します。

弊社は、サプライチェーンからのCO₂排出量を把握し削減することを謳っている「地球温暖化防止に関する基本方針」に則り、グループ6社(セブン-イレブン・ジャパン、イトーヨーカ堂、そごう・西武、ヨークマート、セブン&アイ・フードシステムズ、セブン銀行)で、2013年度の「スコープ3」排出量を算定しました。

グループ企業6社では、環境省の「サプライチェーン排出量算定支援」事業を活用し、「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン Ver2.1」に沿って算定しました。なお、セブン&アイ・フードシステムズによる算定は、この支援事業において、飲食業界で初めての取り組み事例となります。

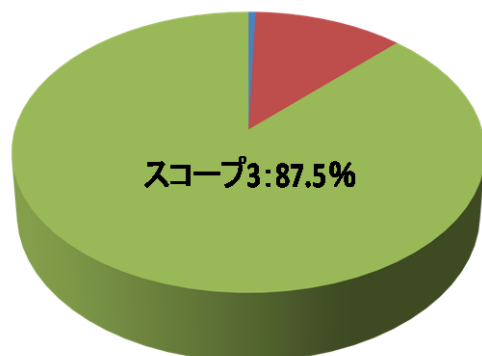
6社の各算定結果は以下のサイトで公表しています。

http://www.gvc.go.jp/business/case_smpl.html

弊社では、今後も継続的に「スコープ3」の算定に取り組むとともに、今回の算定を踏まえ、自社以外をも含めたサプライチェーン全体でのCO₂排出量のさらなる削減を目指してまいります。

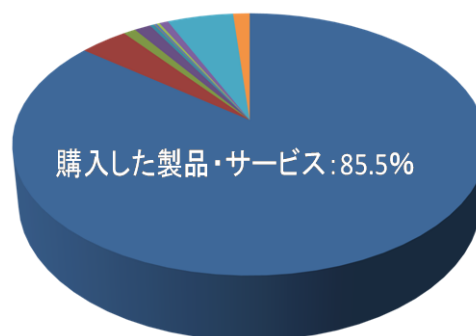
【グループ6社計(2013年度)の算定結果の概要】

図1:スコープ1、2、3の排出量の内訳



スコープ1: 0.6%
スコープ2: 12.0%
スコープ3: 87.5%

図2:スコープ3の内訳



購入した製品・サービス: 85.5%
販売した製品の廃棄: 5.4%
資本財: 3.9%

図 3:内訳の詳細(スコープ 1、2、3 の内訳およびスコープ 3 の内訳)

分類		内容一例	構成比
スコープ 1	直接排出	自家発電による燃料使用	0.6%
スコープ 2	エネルギー起源の間接排出	電力使用	12.0%
スコープ 3	その他の間接排出	以下	87.5%
	カテゴリー1 購入した製品・サービス	原材料の調達	85.5%
	カテゴリー2 資本財	設備への投資	3.9%
	カテゴリー3 スコープ 1,2 に含まれない 燃料及びエネルギー活動	使用したエネルギーの調達	1.0%
	カテゴリー4 輸送、配送(上流)	配送センターから店舗への配送	1.3%
	カテゴリー5 事業から出る廃棄物	店内の廃棄物の廃棄処理	0.4%
	カテゴリー6 出張	従業員の出張	0.05%
	カテゴリー7 雇用者の通勤	従業員の通勤	0.2%
	カテゴリー8 リース資産(上流)	データセンターへの電気使用	0.02%
	カテゴリー9 輸送、配送(下流)	店舗からお客様宅への配送	0.2%
	カテゴリー11 販売した製品の使用	販売した商品の使用	0.7%
	カテゴリー12 販売した製品の廃棄	販売した商品の廃棄処理	5.4%
	カテゴリー13 リース資産(下流)	テナントのエネルギー使用	1.4%

※事業内容から判断し、カテゴリー10「販売した製品の加工」は 6 社共通で算定対象外としました。

ほかにも、事業会社により算定対象外と判断したものは上記に含めていません。

事業会社間で重複して算定しているものも一部あります。

以上